

平成 30 年度 地域ケアプラザ事業報告書

■ 施設名

横浜市新山下地域ケアプラザ

■ 事業報告

今年度、地域ケアプラザの管理運営をどのように行ったのか、具体的に記載してください。

以下、地域ケアプラザ事業実施評価との共通部分

1 全事業共通

地域の現状と課題について

当該地域は、全国でも有数の観光地や多くの企業等があり、県外市外からの通勤・通学者が大きな割合を占めるなど人口流動が非常に盛んな地域を抱えている。また、急速な都市開発と集合住宅の建設により、近隣関係の希薄化が進み新旧住民とのコミュニティ不足への対応が課題となっている。なかでも中華街を中心としたエリアには、外国人の方々が多く居住しており、国際色豊かな特性がある反面、多文化理解・交流支援の実施など、それぞれの文化の違いを考慮した支援を行うことが求められている。子育てサロンの充実や高齢者食事会等が活発に行われており、健康づくり、認知症サポーター養成講座への関心も高まっている。一方で、担い手不足、子どもと高齢者が地域でつながれる場や機会が少ない等の課題が出ているため、人と人とのつながりを大事にした支援に努めた。

(1) 相談（高齢者・子ども・障害者分野等の情報提供）

ケアプラザをより身近に感じて頂けるように、生活支援コーディネーターと地域活動交流支援コーディネーターが積極的に地域のサロンへの参加、行事への訪問等行うこと、日頃地域包括支援センターで受けている相談をきっかけにした働きかけを通して、住民との意見交換や「出前講座メニュー」の活用により、講座等の開催につなげることができた。

地域の町内会館等、より身近な場所での講座も地域包括支援センター職員と連携して赴くことにより、ケアプラザの機能、役割についての周知も併せて行うことが出来た。特にケアプラザから距離的に遠い元町地区においては、お祭りでの情報発信や出前講座の実施等に結びつけることができた。

栄養講座、認知症サポーター養成講座の開催を、併設特養の新山下ホームと協力して開催することができた。中区生活支援課と生活困窮者支援事業の地域への周知に協力し、民児協での説明を行って頂くことが出来た。講座の開催についても共催で企画することができた。

(2) 各事業の連携

月 2 回、5 職種で会議を行うことにより、各部門における取組の進捗を共有し、協働で進める事業はもちろんケアプラザとして地域への情報発信を協力して行うことにより、円滑な連携を図ることができた。

「見守りキーホルダーの出張登録会」や「コグニサイズ」等、生活支援コーディネーターの地域訪問時に地域のニーズに基づいた講座を包括と連携することで開催することができた。

(3) 職員体制・育成、公正・中立性の確保

各部門に適切な人員配置し、職員の資質向上を図るために、法人の目標支援制度を通じた個別目標の設定や管理者との面接を実施するほか、年間育成（研修）計画を作成し、目的意識をもった職員育成に取り組んだ。また、こうした研修で得た知識と情報は報告機会を設けるなど、各々適正な業務遂行ができるよう個別の能力に応じた人材育成に取り組んだ。

法人内 13 の福祉施設による事例研究発表大会において、認知症サポーター養成講座の広がりテーマに生活支援コーディネーターと地域包括支援センター職員が発表し、優勝することができた。

(4) 地域福祉保健のネットワーク構築

連合町内会、地区社協などで開催する各種会合・行事情報収集のために地域に積極的に赴き、ケアプラザの機能周知に努めた。主なものとして、中スポーツセンターでのイベントで高齢者疑似体験の支援、地域防災拠点訓練で車いす体験支援、障害者活動拠点みはらしポンテのお祭りではケアプラザでブースを出させて頂き、周知を行った。

ケアプラザで毎月 1 度開催している「サロンしんやま」でもエリア内にある障害者支援施設のクッキーの試食機会を設け、ネットワークの構築につなげた。

地域支援チーム会議は毎月 1 度、2 地区の話し合いを行ってきましたが、今年度から議論や意見交換に時間を多く取れるように奇数月に第二地区、偶数月に第四地区北部という形で実施した。会議での情報共有は会議前にメールで発信し、会議ではそれを掘り下げる形で発信を行った。区役所、区社協の取組の進捗を把握しながら、地域課題の解決に向けた取組みに努めた。

(5) 区行政との協働

第 3 期中区地域福祉保健計画「中なかいいネ！」の実現に向け、各推進会議への運営支援等、計画推進に向けた取組みに協力した。区事業と自主事業との連動については、認知症普及啓発について取り組むことができ、来年度以降の足がかりをつくることができた。支援チーム会議による定期的な話し合いにより地域課題解決に向けてチーム全体で取り組むことができた。

2 地域活動交流事業

(1) 自主企画事業

世代の垣根を越えた住民交流の持続を意識し事業展開を行なった。具体的には、「味噌作り講座」は 73 名の地域の方が参加され、うち親子での参加も 14 組あり多世代交流や顔の見える関係作りが実現できた。

多文化共生事業としては、「サロンしんやま」内で『中国茶講座』を企画し、日本人の方に、中国茶を通して中国の文化や言語に触れ合ってもらう機会をつくった。子育て世代から高齢者まで幅広い年代の方が参加につなげることができた。

「花植え交流会」では、園芸ボランティアを講師役とし、一般参加者と共にケアプラザ前の花壇に花植え作業をしていただいた。新規ボランティア登録を期待すると同時に、園芸ボランティアメンバーの活躍の幅も広がった。

「打楽器コンサート」では、母親向けのカ「フェコンサートを新たに実施し、母親自身が一時くつろぐことができる機会を設けた。

他機関との連携については、スポーツセンター、子育て支援拠点、予防小児歯科、障がい者生活支援スペースなど各種事業において関係機関と共催で事業展開を行なった。

(2) 福祉保健活動団体等が活動する場の提供

福祉保健活動団体等に対して貸館など快適な環境を提供できるよう、館内美化や貸出物品の整備など、快適な利用環境を提供するように努めた。

貸館等に関しては、会合出席時や広報紙、ホームページを通じて情報提供を行い、福祉保健活動団体等の新規利用促進を推進するとともにケアプラザの周知に努めた。

月毎に会場貸出カレンダーを作成し館内に掲示することで、利用者に活動日や空き状況の確認を簡易的に行ってもらえるよう環境を整えた。また、高齢化に伴い活動メンバーの減少に悩んでいる団体について、ヒヤリングや地域への周知を行うことで新規メンバーの受け入れを後方支援した。貸館団体で活動発表の場を探している団体に関しては、併設のデイサービスを紹介するなどのコーディネートを行なった。

(3) ボランティアの育成及びコーディネート

地域を支える活動者の高齢化に伴い、次世代の担い手の発掘、育成が課題となっている実情を踏まえ、高齢者支援に特化せず、乳幼児のいる世帯、児童、障害児・者を含め、世代の垣根を越えたボランティアの育成や活動機会の開拓、活動しやすい環境整備を行い、担い手を広げるための取組みを推進した。具体的には、広報紙を活用したボランティア活動の周知、啓発をきっかけに、ケアプラザの拠点機能を生かした講座の開催や活動場所の提供、学生を対象とした福祉体験の実施など、様々な方法での支援を行った。

ボランティアセンター等関係機関との連携や活動情報の提供により、新規ボランティアの拡充にも努めた。結果、デイサービス等のボランティア活動の登録につなげることができた。活動場所の有効活用に努め、ボランティア支援の充実を図った。

また、よこはまシニアボランティアポイントの周知を一つのきっかけとしてボランティア活動への関心を促すほか、ボランティア同士のネットワークの充実と情報共有・情報発信、職員から普段の活動の感謝を伝える場として「ボランティア交流会&感謝会」を3月に開催した。

(4) 福祉保健活動等に関する情報収集及び情報提供

地域の社会資源を把握するため地域包括支援センター・生活支援コーディネーターと連携し、福祉保健活動の情報収集を行った。つながりのある各種会合や行事への参加や働きかけの継続、関連する地域活動・地域行事へも足を運ぶことで、さらなる情報収集を図った。地域訪問で得た情報は地域支援チーム会議等を通じて区・区社協とも共有し、情報提供としてはスロープ部分のスペースを利用して掲示の充実を図るとともに「広報しんやま」（年間6回）や「広報ブログ版」からも発信を行った。ブログの周知を進めるため、QRコードを事業のチラシ等に掲載するなど情報をより得やすい環境を整えた。

3 生活支援体制整備事業

(1) 事業実施体制

出張講座一覧を地域に提示し内容を選択していただき、コグニサイズ、終活講座など、その地域のニーズに合った講座や「見守りキーホルダー」出張登録会を所長・5職種で協働して行うことで、介護予防やケアプラザの役割周知、地域活動の支援に繋がった。

また、月1回の「いすにすわってリズムたいそう」や、年3回の「アレンジメント講座」などの自主事業を通して高齢者の外出やケアプラザとのつながりづくりに取り組んだ。

外出のきっかけの取組みの一つである「サロンしんやま」においては中区全域で活動をしているボランティアグループの包丁研ぎ、地域の方のアイデアメニューの紹介を通して地域の方の活躍の場としていただいた。

見守り体制については地域のキャラバンメイトが主体となり各地域で認知症サポーター養成講座を開催するにあたり、ケアマネジャーや特別養護老人ホーム職員と共働で支援を行った。

地域での介護予防の場に関しては、区主催の脳トレリーダー養成講座を各町内のキーパ

ーソンに声をかけ、参加していただき各町内でコグニサイズを実践していただくことで地域へのコグニサイズの普及に繋げることができた。

民生委員とケアマネジャーの交流会では第2地区、第4地区北部でそれぞれの管轄の警察署を交えて地域の高齢者を見守る体制づくりに関する意見交換の機会を設けた。各地区で行うことで、より近い距離での顔の見える関係を構築できた。消防署を交えた交流会を実施することもできた。

地域における人材発掘を目的として、よこはま福祉研究センターに講師依頼し、今後の人生における介護の現実等について、地域のために地域づくりにおいて今のうちにできることを考えていただくきっかけになる講座開催を実施した。

また、地域の生活支援サービスを実施している商店や新規開店した商店へヒヤリングを兼ねて訪問し、生活支援体制整備事業の周知を行った。区内ケアマネジャーに対しては、主任ケアマネジャー主催のケアマネサロンに参加し、地域情報の提供等を行うことを通して生活支援コーディネーターの役割周知を行った。

(2) 地域アセスメント（ニーズ・資源の把握・分析）

地域に積極的に出向き、集いの場や生活支援情報の収集をし、大判マップや情報ファイルを作成し情報の可視化を行い、「サロンしんやま」や施設内スロープでの掲示をすることで地域の方や所内職員に情報提供ができる体制を作った。

地域活動サービスデータベースシステム“Ayamu”におけるケアマネジャーや市民への情報提供体制に向け、随時の情報更新やデータの整備を実施した。

地域住民による活動の概要について、区の保健師と行う地区診断に反映できるよう、活動回数や参加人数を集計しやすくするためのフォームを作成した。

所内職員や他事業所ケアマネジャーからの相談にて把握した生活支援ニーズにおいて、地域の方などから地域資源の情報収集をし、ケアマネジャー等への情報提供を行った。

区役所と地域包括とで行われている定例カンファレンスに出席をすることで、支援困難な個別ケースから地域に必要な資源について情報収集に努めるとともに、情報提供にも努めた。

(3) 連携・協議の場

今までケアプラザとの関係性の薄かった地域において夏祭りでのケアプラザ周知や健康に関するイベントの開催、見守りキーホルダーの出張登録について地域のキーパーソンとの協議の場を設けた。さらにその地区において、イベントに来られなかった高齢者の参加推進についての協議を区役所保健師や友愛活動員を含めて行った。その際には、区主催の研修において講師とその地域を一緒に歩き、アドバイスを支援に活かした。また、高齢者が犯罪に遭わず安心して暮らせる地域づくりについて警察署の職員もお招きし、民生委員・ケアマネジャー等と話し合う場を設けた。

(4) より広域の地域課題の解決に向けた取組

月に1回、区役所・区社協（1層生活支援コーディネーター）・区内6ケアプラザ（2層生活支援コーディネーター）間での連絡会を通してお互いの取組みについての情報共有を行い自施設の事業実施に活かした。

担当地区にない活動、サービス等を必要としている方へ他ケアプラザのコーディネーターより得た、他地区で行われている取組みの情報提供を行った。また、区域で展開されている生活支援サービス団体における他ケアプラザのサロンなどでの包丁研ぎを通した活動の周知の場について、連絡調整を行うなどを他ケアプラザ職員と共働して実施した。

4 地域包括支援センター運営事業

(1) 総合相談支援業務

①地域におけるネットワークの構築

連合町内会、地区社協等で開催する各種会合・行事等へ積極的に参加し、地域包括支援センターの機能周知に努めた。その結果、元町自治会館での出張相談会の実施や千代崎町町内会館での年間4回の出前講座の開催など、住民がケアプラザへの来所が困難な離れた地域との連携を深めることができた。

地域ケア会議では加賀町警察や山手警察などのこれまで連携の薄かった機関と協力して民生委員・ケアマネジャーと地域課題について話し合うことで、複数の機関で地域を見守る体制づくりに取り組むことができた。さらに中消防署とも連携を図る機会を設けることができた。

ネットワーク会議への参加や地域ケア会議での協力などを通じ、中区生活支援課と連携を図り、1月には初の協働事業として、地域の支援者向けの勉強会を企画し実施した。

②実態把握

ひとりぐらし高齢者名簿で支援の必要な高齢者の把握や、実際に民生委員やケアマネジャーの支援に活用できた。

区行政からの各種統計資料等を通し担当圏域の情報収集、地区評価に努めた。得た情報をもとに、連合町内会、自治町内会などで開催する会合や行事へ積極的に出向き、参加を通じて個別課題や地域ニーズの発見・把握に努め、解決に向け必要な情報提供ができるよう生活支援コーディネーターとも連携に努めた。

地域包括支援センターが把握した高齢者の個別ニーズを生活支援コーディネーターに情報提供し、解決のためのインフォーマルサービスの把握に努めた。

③総合相談支援

個別相談に的確に対応するために、包括専門職間でのケース共有・支援方針等の共有に努めた。また、相談者に不利益が生じないようにワンストップサービスを心がけた。地域の身近な相談窓口として地域包括支援センターの周知が図れるよう、積極的に地域会合等にも出向いたり、広報活動を行った。民生委員の要請により、介護保険の説明会を地域に出向いて行った。民生委員から気になるケースの相談が増え、個別課題の把握から支援につながる機会が増えた。早期の課題解決に向け必要時には区行政や医療機関とも連携を図り支援に取り組んだ。相談内容に応じて、介護保険サービスのみではなく、地域資源や一般介護予防事業の情報提供を行った。さらに継続的に支援が必要なケースや複雑な課題のあるケースに対しては「ケースカンファレンス」を開催し、支援方針を共有し対応に努めた。

適切なサービス・機関に繋いだ後も相談内容に応じて継続的に関わり、関係機関への後方支援や家族に対する適切な情報提供・支援に努めた。

(2) 権利擁護業務

①成年後見制度の活用促進・消費者被害の防止

ケアマネジャーを対象に、成年後見制度に関する勉強会を行い、実際に申し立て支援につながることで制度の円滑な活用を図った。また、相談ケースの中から、成年後見制度の利用が必要な対象把握に努め、担当するケアマネジャーと連携を図り利用につながるよう支援した。本人申し立ての支援として法テラスへの同行など、地域の社会資源を活用した支援を行い、区長申し立てが必要な事例においては早期に区役所につなげた。

地域住民への情報発信を目的に、「老後の備え」をテーマとした講演と個別相談会を実施し、任意後見制度や遺言についての普及啓発に努めた。またケアマネジャーからの要請

があり、任意後見制度や遺言についての情報提供を行った。地域での出張講座では、消費生活推進員や山手警察と連携し最新の消費者被害のクイズや手口の紹介を行い、地域ぐるみでの被害防止の取り組みを行った。

②高齢者虐待への対応

所内で横浜市高齢者虐待防止指針の読み合わせを行い、通所介護事業所や居宅介護支援事業所とも協力して高齢者虐待予防の視点を持てるよう連携の仕方を確認した。

ケアマネジャーを対象に外部講師による高齢者虐待の勉強会を実施し、虐待を未然に防ぐための知識を身につけたり、家族に合わせた対応方法を啓発した。

地域住民や民生委員、介護保険サービス事業所などから、虐待を疑わせるケースの情報提供を受けた際は、その都度緊急性や優先性を判断し支援出来るよう、早期に「高齢者虐待相談受付票」を用いながら区行政と情報共有・支援方針の明確化に努めた。また「高齢者虐待防止指針」を活用しながら迅速かつ適切な支援に努めた。

必要時はネットワークミーティングを開催し、定期的に情報交換・支援の方向性の確認を行った。また介護者の負担が軽減することで虐待防止につながるよう介護者のつどいを定期的に開催した。

③認知症

認知症事業検討会で中区全体として取り組んでいる介護者支援事業（臨床心理士相談、介護者のつどい）、認知症初期の方への支援（サポート医との連携）、キャラバンメイト支援等の事業を継続、発展させ、認知症に関する普及啓発に努めた。必要に応じて臨床心理士相談や物忘れ相談の紹介・同行し、課題の把握や支援につなげた。介護者のつどいを3回実施し、デイサービスの見学や紙おむつ講座を行い、介護への不安緩和や情報提供を行った。またその都度茶話会を実施し、介護者同士が介護に対する思いを共有できる場づくりを行い、家族の支援に努めた。

個別相談や介護保険サービス事業所からの相談の中で、必要な方には「中区徘徊高齢者等探してネットワーク」への登録を働きかけ、地域会合等にて仕組みの周知に努めた。

さらに認知症の正しい理解の促進のため地域の認知症キャラバンメイトと協働し、認知症サポーター養成講座を実施した。第4北部地区においては民生委員が主体的にキャラバンメイトとなり、全町内会での認知症サポーター養成講座開催を目標に掲げ取り組みを行い、その結果全ての町内で認知症サポーター養成講座を実施することができた。

第2地区においても自治会長や老人会会長自らがキャラバンメイトとなり老人会等で認知症サポーター養成講座を実施した。また地域のキャラバンメイトが居住する集合住宅においても認知症サポーター養成講座を実施した。認知症サポーター養成講座の実施にあたってはケアプラザだけでなく居宅介護支援事業所のケアマネジャー等のキャラバンメイトにも活動していただく機会を持ってもらうことができた。

医療や介護保険サービスにつながりにくいケースに対しては、認知症初期集中支援チームに対応を依頼し早期の問題解決につなげた。キャラバンメイト連絡会にも参加し、活動の周知や他のキャラバンメイトと顔の見える関係作りを行い、今後の認知症サポーター養成講座開催への協力を依頼した。

その他、介護予防事業の継続に加え、地域にある「認知症カフェ」の周知などを行った。

(3) 包括的・継続的ケアマネジメント支援業務

①地域住民、関係機関等との連携推進支援

地域に点在する介護、保健、福祉、医療機関との連携をはじめ、地区社協や老人会等で開催する給食会やボランティア団体の活動など、様々な催しに参加することで、生活支援コーディネーター等と協力し、地域データやフォーマル、インフォーマルを問わず必要な情報収集や情報提供を行い、ネットワークの構築を図った。また、ケアマネジャーや関係機関にもしんやま勉強会やケアマネサロン、民生・ケアマネジャー交流会等で収集した地域資源等の情報提供を行った。民児協へ参加し情報交換や様々な制度等の情報提供を行った。

ケアマネジャーと地域の民生委員や関係機関とのネットワークの構築のための取り組みとして今年度は3回の民生委員とケアマネジャーの交流会を実施した。交流会では加賀町警察、山手警察、中消防署を招き、全員で安心して暮らせる地域づくりについて話し合いを行い、地域住民や関係機関と顔の見える関係作りができ連携を深めることができた。

地域の見守りネットワークの推進として地域のサロンにて生活支援コーディネーターと共に見守りキーホルダーの出張登録を行った。一人暮らし高齢者等への見守りのため、ひとり暮らし名簿をすぐ活用できるよう付箋等で整理すると共に、個別の相談時や区・民生委員からの相談時には同行訪問等を行い迅速な対応を行った。

②医療・介護の連携推進支援

医療と介護が連携し、地域の高齢者を包括的にケアしていくことができるように、中区在宅医療相談室をはじめ、みなと赤十字病院、横浜中央病院等エリア内外の医療機関の相談室や居宅介護支援事業所との連携推進に努めた。地域ケア会議やケアマネジャー・民生委員交流会にみなと赤十字病院医療相談室にも参加していただき、地域課題の共有や退院時の医療・介護の連携について情報共有を行った。地域全体で緩和ケアを推進していくために、みなと赤十字病院医療連携センターの医師・看護師・医療ソーシャルワーカー及び中区在宅医療相談室の看護師、居宅介護支援事業所のケアマネジャーとともに地域緩和ケア連携調整員研修を受講した。横浜中央病院とは個別ケースの支援や地域医療勉強会への参加を通して関係作りを強化し連携推進に努めた。

中区在宅医療相談室からの依頼を受け、区民向け在宅医療講演会においてフロア発言を行った。また居宅介護支援事業所を対象とした勉強会において事例検討を行い、連携推進に努めた。

施設協力医による「おしえてドクター」を2回実施した。地域住民のみでなく支援事業者にも参加していただくことでより医療との連携を図りやすくする機会となった。

ケアプラザの取り組みについての広報周知を図り、より連携を図りやすくするため、「広報しんやま」を配布する医療機関等を地域活動交流コーディネーターや生活支援コーディネーターと検討し、新たにエリア内にある有料老人ホームと広報紙の配布等を通して交流を開始することができた。

③ケアマネジャー支援

ケアマネジャーからの支援困難事例や緊急対応を含めた個別の相談対応に関し、区行政や地域包括支援センターの他の職種、地域活動交流コーディネーター、生活支援コーディネーターと共有し必要時、同行訪問や担当者会議への参加、関係者を招集しカンファレンスを行う等、支援を行った。

今年度より担当地域のケアマネジャーと各関係機関を対象に1年に4回「しんやま勉強会」を実施した。ケアマネジャーの話やアンケートから、総合事業や成年後見制度、糖尿病等関心の高い内容で行った。地域の事業所と勉強会を行うことで、顔の見える関係構築や、情報の共有、互いの連絡、連携が円滑に行えるような支援体制の確立を図ることができた。アンケートや顔の見える関係から率直な意見収集を行い、ケアマネジャーのニーズ把握も行うことができた。

中区内の地域包括支援センターの協働で、就労3年未満のケアマネジャーを対象に新

任・就労予定ケアマネジャー実習を4日間実施し、講義の他にアセスメントや担当者会議のロールプレイを行うなど参加型の実習とした。同じく中区内地域包括支援センター協働で担当地域のケアマネジャーに対し、専門家を招いた勉強会を開催し、「自立支援」の視点に基づいたケアマネジメントが実践できるよう支援した。

又、同じく中区内の地域包括支援センターの協働でほぼ毎月ケアマネサロンを行い、個別課題、地域課題や最新情報の共有、ときにアドバイスをを行いケアマネジャーが活動しやすい環境作りを行った。

相談等から把握したニーズを5職種の定例会議等の中で生活支援コーディネーター、地域活動交流コーディネーターと共有し地域支援に活かした。

民生委員・ケアマネジャー交流会をとおして地域住民や他職種との連携が深まるよう支援を行った。

(4) 多職種協働による地域包括支援ネットワークの構築・地域ケア会議

多職種協働による地域包括支援ネットワークの構築・地域ケア会議

第2地区、第4地区北部が各々特性に応じた地域包括支援ネットワークを構築していくために、地域ケア会議を3回開催し、多職種協働を生かした支援に取り組んだ。3回のうち1回は認知症のケースについて個別地域ケア会議を行い、行政、ケアマネジャー、デイサービス等の介護保険事業者、区社協、医療従事者、地域住民、専門職等に働きかけ参加いただいた。個別支援の充実に繋がると共に地域課題の実態把握ができ関係者全員の連携促進を深めることにつながった。会議後、地域住民、包括支援センター、介護保険事業者との情報共有とゆるやかな見守りの継続を行えるようになった。又、地域ケア会議後、参加された自治会長自らが認知症を勉強しキャラバンメイトとなり、地域で認知症サポーター養成講座を開催され地域住民の認知症理解を深めることにもつながった。

包括レベル地域ケア会議では警察署の職員と民生委員、ケアマネジャー、訪問介護事業所、病院の相談員、区社協、行政に参加いただき、高齢者が安全に暮らせる地域づくりについて話し合いを行った。課題のひとつとして詐欺被害が上がり、参加者全員で今後できることを話し合うことができた。ケアプラザでも振り返りを行い広報しんやまの紙面を利用し詐欺被害への注意の呼びかけを行った。

(5) 介護予防ケアマネジメント（指定介護予防支援事業・第1号介護予防支援事業）

介護予防ケアマネジメント（指定介護予防支援事業・第1号介護予防支援事業）

利用者とその家族の意思を尊重しながら、個々のニーズや心身の状況とその置かれている環境に応じた介護予防支援及び介護予防ケアマネジメントに努めた。本人の自発的な参加意欲を引き出し、地域資源をケアマネジメントに反映させていけるよう生活支援コーディネーターとともに地域を回りインフォーマルサービスに関する情報収集を行った。

また、介護予防に対する正しい理解と知識を得ることが出来るように、作成した計画に対する十分な説明を行い、サービスに依存することのない、自立した日常生活を営むことが出来るよう支援を行った。さらに委託先の居宅介護支援事業所のケアマネジャーを対象に勉強会を開催し、改めて総合事業について学ぶ機会を設け、介護予防支援に活かせるようケアマネジャーを支援した。

特定の事業所への委託相談が偏らないよう、委託先の一覧表を作成し、利用者が主体的に選択できるよう丁寧な支援を行った。

理学療法士を講師に招き、ICFの考え方を対象理解や計画に反映できるよう介護予防従事者研修を区内地域包括支援センター看護職で企画・実施した。

(6) 一般介護予防事業

一般介護予防事業

「介護予防」に加え、「生きがいつくり」「社会貢献」といった目的も含め「ぞうきんサロン」を継続して行なった。完成したぞうきんやアクリルたわしを地域の福祉施設に寄付をすることで参加者の達成感につながった。新規の参加者も増え、転倒しない体づくりのための「楽トレ倶楽部」も継続して行なった。認知症予防や運動へのニーズは高く、新規の参加者が増えている。特に参加者からの口コミで参加者が増える傾向が見られた。

栄養講座はサロンの中で開催し、気軽に参加できるように努めた。テーマも地域住民に興味のある骨粗鬆症予防のための食事を選び、日常生活で気軽に取り入れられる内容とした。また地域の町内会館での開催の要請があり実施。口腔ケアについても出張講座として実施し今後ケアプラザでも実施していく予定です。脳トレリーダー養成講座を受講した地域住民が所属する「本牧ケセラセラ」に活動の場を提供し、介護予防活動支援に取り組む人材の育成に努めた。また、生活支援コーディネーターの協力のもと今年度あらたに地域住民の方に脳トレリーダー養成講座を受講していただき、地域で活動する機会を設けた。その中から「元気づくりステーション」があらたに立ち上がり、活動が軌道に乗るよう生活支援コーディネーターや区高齢・障害支援課保健師と協力し支援を行なった。昨年発足した「健康づくりの会」においてはコグニサイズの指導者を招いてコグニサイズを取り入れるなどの支援を行った。自主化している「サロン・ど・フット」については後方支援を引き続き行った。

介護予防に活かせるよう「神奈川県未病サポーター養成研修」に参加し、学んだことを老人会等で実施した。また身近に介護予防に取り組めるよう、サロンしんやまにおいて「脳トレ講座」を実施した。

5 その他

以下、地域ケアプラザ事業実施評価との相違部分

施設の適正な管理について

(1) 施設の維持管理について

開所 26 年が経ち設備の老朽化が顕著になっている。不具合が生じないように定期点検等を行うことで保守管理に努めた。具体的には日常のメンテナンスを重要と考え、早い段階での小破修繕を実施した。その中から、クロスの張替工事、キャビネットの交換工事を実施した。設備機器の維持管理に伴う財源負担軽減を図るとともに、専門業者に委託した点検を定期的に行うことで、著しい劣化を助長することがないように安全性を確保。複合施設である特別養護老人ホーム新山下ホームとは、同一法人である利点を生かし、十分な協議を行った上で施設・設備に関し保守管理を一体的に実施した。

(2) 効率的な運営への取組について

当法人では、3つのケアプラザの管理運営を受託しており、法人内、施設内において各々定例会議を設け、課題の検討や情報共有を行いながら意見調整を図ることで、より効率的な施設運営に取り組んだ。さらに関係機関の運営計画等の情報を収集し、関連性のある事業では連携、協力し住民の利益を優先した運営に努めた。特に新山下ホームとは同一法人である利点を生かし、十分な協議を行った上で施設・設備に関し保守管理を一体的に実施するなど、効率的な運営に努めた。

(3) 苦情受付体制について

法人による「苦情解決に関する規定」に基づき苦情受付担当者、苦情解決責任者、第三者委員の連携により迅速な対応を行っている。館内においては、直接的な受付窓口だけではなく、苦情受付箱の設置や「ご意見ダイヤル」の案内掲示、法人ホームページからの専用フォームなどを活用するほか、部門ごとに利用者アンケートを年1回以上実施し、多様なニーズへの対応、改善を行いながら開かれた体制づくりに努めた。また、受付けた苦情については、その内容に関わらず真摯に受けとめ、その原因と事実関係を追及し検討を重ね、十分に精査した上で対応の可否を経過を含めて対象者に返すことに努めた。

(4) 緊急時（防犯・防災・その他）の体制及び対応について

緊急時に全ての職員が迅速且つ的確に行動できるように、緊急時対応マニュアルを指針に緊急時の体制を整備し、万が一の事態の発生に備えていく。隣接した特養施設と消防計画を一体的に策定し、有事に落ち着いた対応ができるよう、様々な事態を想定した計画訓練を年2回実施した。さらに緊急時に職員との連絡が途絶えないように、法人全体で緊急連絡システムを整備し、確実な対応が行える体制づくりに努めた。

施設内にはAEDを設置し、その取扱いに関しては職員を対象に研修を実施することで、適切な判断がとれるよう努めた。施設警備に関しては、職員による館内巡回を行うほか、特養施設と連携した夜警の巡回や機械警備を行い防犯に努めた。

福祉避難所としての協定を締結し、有事の際は区災害対策本部からの開設要請に基づき、要援護者の受け入れを行うとともに、災害応急備蓄を計画的に整備した。

(5) 事故防止への取組について

事故発生時にマニュアルに沿った行動が的確にできるように、定期的な研修により様々な分野の事故防止に取り組んだ。また日頃より事故に対する危機管理意識を高めるため、起きてしまった事故やヒヤリハットの事例から再発を防ぐための取組を職員全体に迅速に共有することに努めた。他施設で発生した事故についても発生の可能性のあるものについては速やかに共有することで発生防止に努め、事故が発生した場合の対応、リスクマネジメントに関する知識の習得にも管理者、各部門の責任者を中心として積極的に取り組み、事故防止への取組を行った。

(6) 個人情報保護の体制及び取組について

個人情報保護の適切な管理では、法人の規定及び横浜市の条例に則り、年一回以上の研修を実施し、職員意識の高揚を図るとともに、個人情報の適切な取扱への誓約を全職員で行った。研修や法人による「個人情報保護に対する基本方針」を踏まえ、マニュアルを整備し、個人情報の漏洩事故防止に向け取り組んだ。また、他施設を含め起きてしまった事故は、職場で共有すべき貴重な教材と捉え、同様の事故を起こさないように自施設を想定した取組を行った。

(7) 情報公開への取組について

重要な伝達手段である紙媒体「広報しんやま」による定期的な情報発信とともに、掲示板用に作成した「広報しんやまA4版」、「広報しんやまブログ版」、法人ホームページ、介護サービス情報公表制度の活用などの電子媒体による情報の発信、情報の公表を積極的に行った。ケアプラザの取組みを伝え、施設利用者の増加につながるように工夫を凝らした広報周知を引き続き行った。

(8) 人権啓発への取組について

当該地域は開港の歴史、国際色豊かな文化が息づき、外国人も多く暮らしている。文化の違いから「共生社会」の実現に向けての課題もあり、話し合いも進められている。外国（多文化）への理解だけでなく、認知症や疾患、障がいについての理解を広め、誰もが共に生活できる地域となっていけるように、全職員が人権問題を正しく理解し、関係機関と連携して啓発に向けての取組みに努めた。

(9) 環境等への配慮及び取組について

引き続き高熱水費削減のため、節電、節水を実施した。館内には、節電、節水のPRポスターを掲示し、施設利用者からの理解と協力を得られるよう努めた。職員一人一人が環境問題への意識を持ち、職員が率先して環境に配慮した取組みができるよう努めていく。施設内で排出されたものは再利用する資源と考え、ゴミ減量とリサイクルに取り組んだ。その他、職員の移動手段は、可能な限り徒歩か自転車を基本とし、環境に配慮した省エネルギー化に努めた。

介護保険事業

● 指定介護予防支援事業・第1号介護予防支援事業

《職員体制》

保健師等 1名（常勤兼務）
主任ケアマネジャー 1名（常勤兼務）
社会福祉士 1名（常勤兼務）

《目標に対する成果等》

利用者とその家族の意思を尊重しながら、個々のニーズや心身の状況とその置かれている環境に応じたサービス計画の作成に努めていく。介護予防及び介護予防ケアマネジメントに対する正しい理解と知識を得ることが出来るように、作成した計画に対し十分な説明を行い、サービスに依存することのない、自立した日常生活を営むことが出来るよう支援を行う。特に生活支援コーディネーターが把握しているインフォーマルサービスや介護予防事業、自主事業等の情報提供も積極的に行い、自立支援に努めていく。委託先のケアマネジャーにも地域の同様の情報提供を行い、自立支援のための適切なマネジメントができるよう支援に努める。

《実費負担（徴収する場合は項目ごとに記載）》

● 担当者が通常のサービス実施地域を超える地域に訪問、出張する必要がある場合には、その交通費（実費）の負担をお願いすることがある。

《その他（特徴的な取組、PR等）》

委託している利用者の介護予防ケアマネジメントが適切に行われるように、サービス担当者会議への積極的な参加と介護予防ケアプランの定期的な確認を行っていく。更にケアマネジャーの介護予防ケアマネジメント力の向上を目指し、区内包括支援センター合同で介護予防支援従事者研修（実践編）を行う。

《利用者実績》

※ 単位は省略してください。

【単位：人】

4月	5月	6月	7月	8月	9月
146	147	147	147	140	139
10月	11月	12月	1月	2月	3月
132	135	138	138	140	144

● 居宅介護支援事業

《職員体制》

管理者 1名（常勤兼務）
介護支援専門員 3名（常勤3名）

《目標に対する成果等》

利用者の人格を尊重し、自立と在宅生活の維持向上を目指したケアプランの作成を行っていく。積極的に各種研修等へ参加し、専門職としてのスキルアップを図り、情報交換による最新の情報を活用することで、利用者・家族の意向が活かされたケアプランの作成に努める。ケアプランの実施に当たっては法令を遵守し、訪問・モニタリング・見直しを適宜行い適正にサービスが提供されるように連絡調整を行っていく。介護保険サービス以外の必要なサービスや講座・催し物についても情報提供し、生活の質を高める働きかけに努めていく。

《実費負担（徴収する場合は項目ごとに記載）》

- 通常の事業実施地域を超えて行う場合は、その交通費（実費）を請求。
- 利用者の求めに応じて記録等の複写物を提供した場合はその実費を請求。

《その他（特徴的な取組、PR等）》

利用者と家族の立場に立った迅速且つきめ細かい支援に努めていく。地域福祉の拠点であるケアプラザの居宅介護支援事業所として、地域包括支援センター併設の強みを生かし、関係機関・地域の支援ネットワークと綿密に連絡をとりながら、利用者・介護者支援に取り組んでいく。結果として介護サービスにつながらないケースに関しても、包括専門職との連携を図り、利用者の不利益とならないよう支援に努めていく。

《利用者実績》

※ 単位は省略してください。

【単位：人】

4月	5月	6月	7月	8月	9月
94	95	99	98	100	103
10月	11月	12月	1月	2月	3月
100	99	101	105	107	106

● 通所介護・認知症対応型通所介護 対象外

《提供するサービス内容》

-
-
-

《実費負担（徴収する項目ごとに記載）》

● 1割負担分

（要介護1） 円

（要介護2） 円

（要介護3） 円

（要介護4） 円

（要介護5） 円

● 食費負担 円

-
-

※ その他、実費相当を徴収するものについては、各施設で項目を増やして記載をしてください。

《事業実施日数》 週 日

《提供時間》 : ~ : （半角で入力 例 9:00~15:00）

《職員体制》

《目標に対する成果等》

《その他（特徴的な取組、PR等）》

《利用者実績（延べ人数）》

※ 単位は省略してください。

【単位：人】

4月	5月	6月	7月	8月	9月
10月	11月	12月	1月	2月	3月

● 介護予防通所介護・第1号通所事業・介護予防認知症対応型通所介護

《提供するサービス内容》

-
-
-

《実費負担（徴収する項目ごとに記載）》

● 1割負担分

（事業対象者） 円

（要支援1） 円

（要支援2） 円

● 食費負担 円

-

-

※ その他、実費相当を徴収するものについては、各施設で項目を増やして記載をしてください。

《事業実施日数》 週 日

《提供時間》 : ~ : （半角で入力 例 9:00~15:00）

《職員体制》

《目標に対する成果等》

《その他（特徴的な取組、PR等）》

《利用者実績（契約者数）》

※ 単位は省略してください。

【単位：人】

4月	5月	6月	7月	8月	9月
10月	11月	12月	1月	2月	3月

平成30年度「新山下地域ケアプラザ」
収支予算書及び報告書（一般会計）＜地域活動交流＞

収入の部 (単位：円)

科目	当初予算額 (A)	補正額 (B)	予算現額 (C=A+B)	決算額 (D)	差引 (C-D)	説明
指定管理料	16,563,172	2,320,320	18,883,492	18,949,321	△ 65,829	横浜市より
利用料金収入			0	0	0	
指定管理料充当 事業	138,000		138,000	87,900	50,100	
自主事業収入			0	0	0	
雑入	9,000		9,000	14,820	△ 5,820	
印刷代	9,000		9,000	14,820	△ 5,820	
自動販売機手数料			0	0	0	
駐車場利用料金収入			0	0	0	
その他 (指定管理料充当)	0		0	0	0	
その他 (施設使用料相当額 法人負担分)	0		0	0	0	
その他 (提案時控除 法人負担分)	0		0	0	0	
収入合計	16,710,172	2,320,320	19,030,492	19,052,041	△ 21,549	

支出の部

科目	当初予算額 (A)	補正額 (B)	予算現額 (C=A+B)	決算額 (D)	差引 (C-D)	説明
人件費	10,490,757	0	10,490,757	10,887,693	△ 396,936	
本俸	8,971,757		8,971,757	7,302,236	1,669,521	
社会保険料	917,000		917,000	851,910	65,090	
手当計	438,000		438,000	2,587,768	△ 2,149,768	
健康診断費	49,000		49,000	26,692	22,308	
勤労者福祉共済掛金	0		0	0	0	ハマふれんど
退職給付引当金繰入額	115,000		115,000	93,551	21,449	
その他	0		0	25,536	△ 25,536	
事務費	995,732	0	995,732	864,406	131,326	
旅費	5,000		5,000	864	4,136	
消耗品費	119,000		119,000	229,904	△ 110,904	
会議賄い費	0		0	0	0	
印刷製本費	20,000		20,000	7,993	12,007	
通信費	183,000		183,000	179,880	3,120	
使用料及び賃借料	0	0	0	0	0	
横浜市への支払分	0		0	0	0	
その他	0		0	0	0	
備品購入費	50,000		50,000	201,690	△ 151,690	
図書購入費	0		0	0	0	
施設賠償責任保険	2,000		2,000	1,540	460	
職員等研修費	50,000		50,000	5,750	44,250	
振込手数料	11,000		11,000	0	11,000	
リース料	175,000		175,000	0	175,000	
手数料	10,000		10,000	116,703	△ 106,703	
地域協力費	0		0	0	0	
その他	370,732	0	370,732	120,082	250,650	
事業費	643,000	0	643,000	486,520	156,480	
運営協議会経費	42,000		42,000	5,505	36,495	
指定管理料充当 事業	601,000		601,000	481,015	119,985	
管理費	3,741,422	2,320,320	6,061,742	5,653,860	407,882	
建築物・建築設備点検	0	0	0	0	0	
光熱水費	2,142,000	0	2,142,000	1,994,526	147,474	
電気料金			0	607,389	△ 607,389	
ガス料金			0	247,155	△ 247,155	
水道料金			0	1,139,982	△ 1,139,982	
清掃費	231,000		231,000	226,994	4,006	
修繕費	474,000	2,320,320	2,794,320	2,814,532	△ 20,212	
機械整備費	0		0	0	0	
設備保全費	580,000	0	580,000	592,825	△ 12,825	
空調衛生設備保守	453,000		453,000	452,219	781	
消防設備保守	55,000		55,000	54,091	909	
電気設備保守	41,000		41,000	40,174	826	
害虫駆除清掃保守	27,000		27,000	26,232	768	
駐車場設備保全費	0		0	0	0	
その他保全費	4,000		4,000	20,109	△ 16,109	
共益費	25,000		25,000	24,983	17	
その他	289,422		289,422	0	289,422	
公租公課	839,261	0	839,261	871,015	△ 31,754	
事業所税	0		0	0	0	
消費税	839,261		839,261	871,015	△ 31,754	
印紙税	0		0	0	0	
その他 ()	0		0	0	0	
事務経費 (計算根拠を説明欄に記載)	0	0	0	0	0	
本部分			0	0	0	
当該施設分			0	0	0	
二一ズ対応費			0	0	0	
支出合計	16,710,172	2,320,320	19,030,492	18,763,494	266,998	
差引	0	0	0	288,547	△ 288,547	

自主事業費収入	601,000		601,000	87,900	513,100	自主事業への参加料等
自主事業費支出	601,000		601,000	481,015	119,985	自主事業経費
自主事業収支	0	0	0	△ 393,115	393,115	

管理許可・目的外使用許可収入	0		0	0	0	駐車場利用料金・自動販売機手数料収入等法人収入
管理許可・目的外使用許可支出	0		0	0	0	使用料(横浜市への支払等)
管理許可・目的外使用許可収支	0		0	0	0	

平成30年度「新山下地域ケアプラザ」
 収支予算書及び報告書（特別会計）＜包括・介護予防・生活支援＞

説明欄は、主な用途などを必要に応じて記入してください。
 （現在入力してある文字等の削除も可）

収入の部 (単位：円)

科目	当初予算額 (A)	補正額 (B)	予算現額 (C=A+B)	決算額 (D)	差引 (C-D)	説明
指定管理料（包括）	22,860,000	0	22,860,000	22,860,000	0	横浜市より
指定管理料（介護予防）	151,000		151,000	151,000	0	横浜市より
指定管理料（生活支援）	5,789,000		5,789,000	5,789,000	0	横浜市より
利用料金収入			0	0	0	
指定管理料充当事業（包括）	0		0	4,000	△ 4,000	
指定管理料充当事業（介護予防）	0		0	0	0	
指定管理料充当事業（生活支援）	0		0	93,600	△ 93,600	
自主事業収入	0		0	0	0	
雑入	0	0	0	0	0	
印刷代	0		0	0	0	
自動販売機手数料	0		0	0	0	
駐車場利用料金収入	0		0	0	0	
その他（指定管理充当分）	0		0	0	0	
その他（提案時控除 法人負担分）	5,901,243		5,901,243		5,901,243	
収入合計	34,701,243	0	34,701,243	28,897,600	5,803,643	

支出の部

科目	当初予算額 (A)	補正額 (B)	予算現額 (C=A+B)	決算額 (D)	差引 (C-D)	説明
人件費	31,715,353	0	31,715,353	26,659,646	5,055,707	
本俸	21,454,000		21,454,000	12,705,781	8,748,219	
社会保険料	3,395,000		3,395,000	3,425,336	△ 30,336	
手当計	2,479,000		2,479,000	10,039,320	△ 7,560,320	
健康診断費	69,000		69,000	23,627	45,373	
勤労者福祉共済掛金	0		0	0	0	ハマふれんど
退職給付引当金繰入額	433,000		433,000	408,359	24,641	
その他	3,885,353		3,885,353	57,223	3,828,130	
事務費	761,395	0	761,395	777,745	△ 16,350	
旅費	5,000		5,000	9,183	△ 4,183	
消耗品費	20,000		20,000	149,637	△ 129,637	
会議賄い費	0		0	0	0	
印刷製本費	20,000		20,000	6,747	13,253	
通信費	316,000		316,000	160,678	155,322	
使用料及び賃借料	0	0	0	0	0	
横浜市への支払分	0		0	0	0	
その他	0		0	0	0	
備品購入費	100,000		100,000	300,834	△ 200,834	
図書購入費	0		0	0	0	
施設賠償責任保険	4,000		4,000	1,540	2,460	
職員等研修費	107,000		107,000	10,238	96,762	
振込手数料	10,000		10,000	130	9,870	
リース料	178,000		178,000	4,400	173,600	
手数料	0		0	43,671	△ 43,671	
地域協力費	0		0	0	0	
その他	1,395	0	1,395	90,687	△ 89,292	
事業費	1,170,000	0	1,170,000	1,354,718	△ 184,718	
協力医	630,000		630,000	630,000	0	
指定管理料充当 事業（包括）	80,000		80,000	45,238	34,762	
指定管理料充当 事業（介護予防）	151,000		151,000	122,805	28,195	
指定管理料充当 事業（生活支援）	309,000		309,000	556,675	△ 247,675	
管理費	1,054,495	0	1,054,495	880,750	173,745	
建築物・建築設備点検	0		0	0	0	
光熱水費	603,000	0	603,000	530,190	72,810	
電気料金			0	161,458	△ 161,458	
ガス料金			0	65,699	△ 65,699	
水道料金			0	303,033	△ 303,033	
清掃費	62,000		62,000	60,338	1,662	
修繕費	126,000		126,000	126,000	0	
機械警備費	0		0	0	0	
設備保全費	154,900	0	154,900	157,582	△ 2,682	
空調衛生設備保守	121,000		121,000	120,209	791	
消防設備保守	15,000		15,000	14,378	622	
電気設備保守	11,000		11,000	10,679	321	
害虫駆除清掃保守	7,000		7,000	6,972	28	
駐車場設備保全費	0		0	0	0	
その他保全費	900		900	5,344	△ 4,444	
共益費	7,000		7,000	6,640	360	
その他	101,595		101,595	0	101,595	
公租公課	0	0	0	0	0	
事業所税			0	0	0	
消費税	0		0	0	0	
印紙税			0	0	0	
その他（ ）			0	0	0	
事務経費（計算根拠を説明欄に記載）	0	0	0	0	0	
本部分			0		0	
当該施設分			0		0	
二一ズ対応費			0		0	
支出合計	34,701,243	0	34,701,243	29,672,859	5,028,384	
差引	0	0	0	△ 775,259	775,259	

自主事業費収入	0		97,600		97,600	自主事業への参加料等
自主事業費支出	0		724,718		724,718	自主事業経費
自主事業収支	0		0	0	0	

管理許可・目的外使用許可収入			0		0	駐車場利用料金・自動販売機手数料収入等法人収入
管理許可・目的外使用許可支出			0		0	使用料(横浜市への支払等)
管理許可・目的外使用許可収支	0	0	0	0	0	

★指定管理業務・委託業務として実施している介護保険事業のみ、対象です。

平成30年度 地域ケアプラザ収支予算書及び報告書<介護保険事業分>

平成30年4月1日～平成31年3月31日

施設名：新山下地域ケアプラザ

(単位：千円)

	科目	介護予防支援			居宅介護支援			通所介護			予防通所介護・第1号通所介護		
		予算	決算	差引	予算	決算	差引	予算	決算	差引	予算	決算	差引
収入	介護保険収入	4245	4136	109	15020	16674	-1654			0			0
	その他	4928	5109	-181	389	330	59	0	0	0	0	0	0
	介護予防ケアマネジメント費	4928	5109	-181			0			0			0
	事業・負担金収入			0			0			0			0
	受託収入			0	389	330	59			0			0
				0			0			0			0
				0			0			0			0
	その他			0			0			0			0
	収入合計(A)	9173	9245	-72	15409	17004	-1595	0	0	0	0	0	0
支出	人件費			0	21677	20154	1523			0			0
	事務費			0	922	1148	-226			0			0
	事業費			0	320	80	240			0			0
	管理費			0			0			0			0
	その他	5784	6080	-296	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	利用者負担軽減額			0			0			0			0
	消費税			0			0			0			0
	介護予防プラン委託料	3140	3360	-220			0			0			0
	予防プラン	2644	2720	-76			0			0			0
	その他			0			0			0			0
	支出合計(B)	5784	6080	-296	22919	21382	1537	0	0	0	0	0	0
	収支 (A) - (B)	3389	3165	224	-7510	-4378	-3132	0	0	0	0	0	0

※ 介護予防プランを他事業者へ委託する場合の取扱は、介護報酬を一旦全額収入に計上した後、他事業者へ委託料として支払う分を支出に計上してください。

※ 上記以外の事業を実施している場合は、事業ごとに列を追加して記載してください。

平成30年度 自主事業収支報告書

横浜市新山下地域ケアプラザ

事業名	①募集対象者	自主事業決算額							
	②募集人数	総経費	収入			支出			
	③一人当たり参加費		指定管理料	参加費	その他	講師謝金	材料費	その他	
親子のフリースペースおひさま	乳幼児・養育者	19178	地活	19178					19178
	605名		包括						
	0円		介護						
			生活						
地域子育てサロンひだまり	乳幼児・養育者	0	地活						
	0名		包括						
	0円		介護						
			生活						
子育て支援拠点のんびりんこ情報提供	乳幼児・養育者	0	地活						
	30名		包括						
	0円		介護						
			生活						
フローリス	ボランティア	14307	地活	14307					14307
	220名		包括						
	0円		介護						
			生活						
ボランティア交流会&感謝会	ボランティア	25877	地活	25877					25877
	27名		包括						
	0円		介護						
			生活						
こだわり味噌作り	地域住民	93756	地活	18956	74800		5000	88000	756
	73名		包括						
	1,500円		介護						
			生活						
いすにすわってリズムたいそう	地域住民	123780	地活						
	83名		包括						
	500円		介護						
			生活	82280	41500		120000		3780
出張のんびりんこ知って得する体験ツアー～親子でカラダを動かそう～	子ども・養育者	1328	地活	1328					1328
	31名		包括						
	0円		介護						
			生活						
福祉体験学習	中学生・高校生	0	地活						
	12名		包括						
	0円		介護						
			生活						
打楽器コンサート	乳幼児・養育者	24108	地活	17808	6300		13000	3800	7308
	87名		包括						
	0円と300円		介護						
			生活						
花植え交流会	地域住民	4407	地活	4407				1006	3401
	16名		包括						
	0円		介護						
			生活						
ボラたま！ 障害児余暇支援事業ボランティア講座	障害児	2500	地活	2500			2500		
	5名		包括						
	0円		介護						
			生活						

平成30年度 自主事業収支報告書

子育てサポートセンター 入会説明会	地域住民	0	地活					
	12名		包括					
	0円		介護					
			生活					
アレンジメント講座	地域住民	80800	地活					
	42名		包括					
	700円と1200円		介護	37000	43800			80800
			生活					
高齢者疑似体験	地域住民	0	地活					
	10名		包括					
	0円		介護					
			生活					
夏休み余暇支援事業 ホップ・ステップなつやす み	地域住民	5540	地活	5540				5540
	14名		包括					
	0円		介護					
			生活					
親子で学べる！ 楽しく学べる！ 歯磨き講座	乳幼児・養育者	0	地活					
	13名		包括					
	0円		介護					
			生活					
認知症サポーター養成 講座	地域住民	1331	地活					
	50名		包括	1331				1331
	0円		介護					
			生活					
民生委員・ケアマネ ジャー交流会	民生委員・ケアマネジャー	14626	地活					
	90名		包括	14626				14626
	0円		介護					
			生活					
サロンしんやま	地域住民	46091	地活	15641	6800			22441
	240名		包括	7440	4000			11440
	100円		介護					
			生活	5910	6300			12210
おしえてドクター	地域住民	0	地活					
	60名		包括					
	0円		介護					
			生活					
認知症介護者の集い	地域住民	1093	地活					
	30名		包括	1093				1093
	0円		介護					
			生活					
「始めよう 自分探しの 終活」	地域住民	0	地活					
	20名		包括					
	0円		介護					
			生活					
終活って誰のため？何 のため？	地域住民	0	地活					
	20名		包括					
	0円		介護					
			生活					
高齢者虐待の防止と支 援～不適切介護への対 応 グレーゾーンの家族 への支援～	ケアマネジャー	8352	地活					
	30名		包括	8352				8352
	0円		介護					
			生活					
今のうちから考えよう！ 人生100年時代！介護 難民にならないために	地域住民	2867	地活					
	51名		包括					
	0円		介護					
			生活					2867

横浜市新山下地域ケアプラザ

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
親子のフリースペースおひさま	(目的) ケアプラザ内の公園をテーマに未就学児とその親を対象として、親子で集える場の提供を行った。 (内容) 出入り自由なフリースペースという形態で、親同士が自主的に子育てに関する情報交換をしたり、子ども同士のふれあいの場づくりを提供した。毎月原則3回(第1～第3金曜)実施しており、第2金曜は区主催の赤ちゃん学級「キャンディクラブ」と連動させることで、初めての方でも利用しやすい環境づくりを心掛けた。 第1金曜日にはボランティアによる「絵本の読み聞かせ会」の実施を始めた。	毎月第1～3金曜日 (計33回)

事業名	目的・内容	実施時期・回数
地域子育てサロンひだまり	地域の幼稚園を会場として、未就学児とその親を対象として親子で集える場の提供を行った。親同士の情報交換の場を提供や地域の子育て情報の提供を主任児童委員を中心に行った。 第4地区北部民生委員をはじめとした地域の担い手を中心として運営する地域子育てサロン。地域の幼稚園と、町内会館を会場として開催。利用者のニーズに応じて、歯科衛生講座や幼児救急をテーマとした講座を開催した。	毎月第1月曜日 (計12回)

事業名	目的・内容	実施時期・回数
子育て支援拠点のんびりんこ情報提供	子育てサロン「おひさま」にて親御さんへの子育て情報の提供と育児相談を行った。 子育て支援拠点のんびりんこによる、子育て情報の提供と育児相談を実施した。 のんびりんこの担当者がケアプラザの子育てサロン「おひさま」に訪問し、一時間程度行った。 のんびりんこことケアプラザの連携も図った。	4/20、9/7、12/7 (計3回)

事業名	目的・内容	実施時期・回数
フローリス	ボランティアグループ「フローリス」の支援。 花やまぐち事業への協力。 ボランティアグループ「フローリス」のガーデニングボランティア活動を支援した。	毎週火曜・金曜 (計84回)
事業名	目的・内容等	実施時期・回数
ボランティア交流会&感謝会	(目的) 各ボランティアの活動を知ったり思いを聞いたりする交流の機会として設ける。ケアプラザのボランティアとして共通認識を持っていただく機会とする。ケアプラザスタッフとの交流。普段の活動の感謝を伝える。 (内容) 各ボランティアからの自己紹介を通じ互いの活動を知ってもらう。また、団体2組による作品展示も実施。歓談タイムを設け、ボランティア同士、ケアプラザスタッフとの自由な交流を図り、永年活動者には感謝状を贈呈した。	3/17 (計1回)

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
こだわり味噌作り	あらゆる世代を対象にした生きがい作りや体験学習といった目的と併せ、地域住民の気軽に参加できる世代間交流の場としても実施。また、ケアプラザの周知や地域活動の紹介、地域活動の参加のキッカケ作りとした。 老舗の糰店の方を講師に迎え、味噌作り体験を行った。大豆つぶしや糰混ぜなどを各テーブル交流しながら作った。 大変人気の講座のため、今年は2日間の開催とした。	6/17、6/23 (計2回)

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
いすにすわってリズムたいそう	(目的) 高齢者の外出のきっかけとなる。認知症予防となる音楽療法。 (内容) いすに座り、懐かしの曲に合わせて体を動かす。曲によってはボランティアによるピアノ演奏や歌詞ポスターも加え、歌いながら実施。	毎月1回 日曜日 (計12回)

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
出張のんびりんこ知って得する体験ツアー～親子でカラダを動かそう～	のんびりんこ利用者が中スポーツセンター、新山下地域ケアプラザを訪れ、自ら利用するきっかけを作る。区内の子育て支援機能のある施設との連携を深め、各地域、組織の取組やニーズをとらえる。「親子ふれあい体操」、特別開催：子育てサロン『おひさま』体験を通じて親子の居場所を増やす。中スポーツセンターにて、施設見学とふれあい体操等のプログラム体験を行なう。新山下地域ケアプラザに移動し、子育てサロン「おひさま」の体験と体力測定を	11/17 (計1回)

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
福祉体験学習	地域住民を対象に、障害者・高齢者に対する理解を深めるとともに、地域の福祉について理解を深め、地域の一員として生きる姿勢を育む。 障害者・高齢者に対する理解を深めるとともに地域の福祉について理解を深め、地域の一員として生きる姿勢を育むことを目的とするため、ケアプラザ機能の説明や通所介護での実習体験を行った。5月に消防消防局から2名。	5/7、11/27、 11/28、1/31、 2/1、2/4 (計6回)

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
打楽器コンサート	シーンごとに合わせた楽曲を生音楽で聴き子供たちの想像力をかきたてる。また、打楽器で効果的に自然を表現、演奏家と合奏し、音楽と言葉の世界を楽しんでもらった。親子で小物楽器を作るワークショップと、打楽器コンサートを行ない、最後に大型打楽器を実際に弾き触れ合える時間を設けた。五感の刺激にもつながった。1月には、母親のレスパイトを目的に、「ママ向けコンサート」を実施。	10/31、1/25 (計1回)

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
花植え交流会	花植えを通じた地域住民の交流の機会とし、新規ボランティアの登録にもつなげた。 地域から参加者を募り、園芸ボランティアの方に先導していただき、プランターに花の植え付けをし、最後に交流会も行った。	11/20 (計1回)

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
ボラたま！ 障害児余暇支援事業ボランティア講座	障害児余暇支援事業の担い手の発掘、障害に関する普及啓発が目的。 当事者の親の会から講師を招き、知的障害の疑似体験を行った。また、グループワークを通じて障害児への接し方や理解を深めてもらった。昨年度の余暇支援の様子をスライドで示すことでボランティアのイメージを明確に伝えた。	7/31 (計1回)

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
子育てサポートセンター入会説明会	安心して子育てができるよう、地域ぐるみでの子育て支援や、仕事と育児を両立できる環境を作ることを目的とした会員制の有償のささえあい活動。地域の中で子どもを預けたり、預かったりすることで人と人のつながりを広げ、地域ぐるみでの子育て支援を目指している。地域の中で子どもを預けたり、預かったりすることで人と人とのつながりを広げ、地域ぐるみでの子育て支援をめざす、支えあい活動。	2/20 (計1回)

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
アレンジメント講座	(目的) リタイアした高齢者の活躍の場。 高齢者の外出、他者との交流のきっかけの一助となる。 (内容) 地域の方が講師を務めて講座を実施。 4月は季節のフラワーアレンジメントを作成。 11月はクリスマスリース作り講座を実施。 12月はお正月飾り作り講座を実施。	4/21、 11/23、12/22 (計3回)

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
高齢者疑似体験	中スポーツセンターで開催するスポーツ・レクリエーションフェスティバル2018内での事業。高齢者体験キッドを装着し、高齢者の生活体験や、視野が狭くなった状態や手先の不自由さ伴った上での買い物をする動作がどのくらい大変であるか等、様々なプログラムを体験してもらう。車椅子体験も行う。 ケアプラザの広報紙等を配布し、ケアプラザの役割等の周知にもつなげる。	10/21 (計1回)

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
夏休み余暇支援事業 ポップ・ステップなつやすみ	長期休暇の障害児の余暇支援、養育者のレスパイトを目的とする。また、地域住民の障害者理解や、障害のある子どもたちの地域生活を支援するサポーターを増やす。ケアプラザにて障害児（中区内の個別支援級に通学中の児童）を対象に調理や体操のレクリエーションプログラムを実施した。 また、その間養育者に対してはレスパイトの効果を狙った。	8/8 (計1回)

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
親子で学べる！ 楽しく学べる！ 歯磨き講座	未就学児とその親を対象に、月齢に応じた分かりやすい教材を用いながら、楽しく歯の大切さについて学び、むし歯予防のポイント、歯磨きのポイントを教わる機会とした。講師は、横浜山手キッズデンタルパークの歯科衛生士と歯科医師。むし歯予防や仕上げみがきの方法について講義、その後お子様一人一人の磨き方チェックを行なった。	4/27 (計1回)

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
認知症サポーター養成講座	ケアプラザだけでなく、地域のキャラバンメイトと共に公共施設や学校も含む地域の様々なところで講座を開催し、認知症高齢者を皆で見守っていく地域をつくっていく。4月に小港町2, 3丁目班長会の場で実施。地域のキャラバンメイトが主となり開催。 7月、千代崎町1, 2, 3, 4丁目、諏訪町住民対象に実施。 10月に小港町1丁目班長を対象に実施。 3月に北方町1, 2丁目住民を対象に実施。	4/1、7/22、 10/27、3/9 (計4回)

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
民生委員・ケアマネジャー交流会	8月は第4地区北部、9月は第2地区対象に警察も交えて、地域で起こっている犯罪の現状や安心して暮らせるまちづくりについての意見交換を行った。2月は中消防署の救急担当者と北方消防出張所の所長により救急業務の現状について説明いただき、後半はグループワークにて情報交換を行った。	8/29、9/10、2/25 (計3回)

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
サロンしんやま	地域住民が気軽に集える場の提供。外出のきっかけ、つながりづくり。多世代交流やボランティア活動の場としての機能も期待する。 多目的ホールを開放し、お茶を飲みながらお互いに交流を図れるようにする。各回、担当ごとのサブイベントを開催。	4/24、5/22、 6/26、7/24、 8/28、9/25、 10/23、11/27、 12/25、1/22、 2/26、3/26 (計12回)

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
おしえてドクター	高血圧と合併症といった関心の高いテーマについて、施設協力医の稲村先生を講師として招き、地域住民を対象とした健康講座を開催した。	5/26、11/24 (計2回)

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
認知症介護者の集い	介護者のストレスや不安の軽減を図り、介護者同士が交流できる場の提供を行う。 介護者支援のためのお役立ち講座と茶話会を実施する。	9/8、12/14、3/19 (計3回)

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
「始めよう 自分探しの終活」	自分や家族の将来を見つめることで、介護予防や地域とのつながりの大切さを考えてもらう。 成年後見制度や遺言、相続、エンディングノートなどの制度や用語の解説をして、敷居を下げ、利用を促進する。 将来の備えについて、法定相続人のルールや遺言の種類、エンディングノート、成年後見制度、死後事務委任契約について司法書士による講話を行う。	9/25 (計1回)

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
終活って誰のため？何のため？	成年後見制度、任意後見制度の利用促進のための普及啓発。 今後の人生をいきいき過ごすため、家族のためにどんな準備が必要か考えてもらう。「終活」として自身の介護・医療に関するエンディングノートを実際を書いてみる。 お葬式やお墓、遺産、相続について包括社会福祉士より講話。	9/18 (計1回)

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
高齢者虐待の防止と支援～不適切介護への対応グレイゾーンの家族への支援～	高齢者虐待のリスクとなる不適切介護の要素や虐待事例への対応方法を学び、虐待を未然に防ぐための支援方法や対応力を身につける。 ケアマネジャーを対象に、高齢者虐待予防アドバイザーの梶川義人氏を講師に招き、高齢者虐待の発生予防策、支援方法（エンパワー、認知行動変容、虐待対応の計画・実施について講話していただく。	11/30 (計1回)

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
今のうちから考えよう！人生100年時代！介護難民にならないために	様々な世代に介護保険の現実を知っていただき、今後の地域での協力体制について考えていただく。 地域のボランティアになりうる人材の発掘。 よこはま地域福祉研究センター佐塚氏を講師としてお迎えし、介護保険に関する講話、2回目ではグループワークを行った。2回目実施後には茶話会を実施し、今後の地域や自分たちのことに対する不安などについて話し合った。	11/12、11/26 (計2回)

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
しんやま勉強会	地域の事業者との連携を深め、地域包括ケアシステムの構築を目指し、事業者を対象に、地域包括支援センターからの情報発信や制度理解のための勉強会を開催する。 5月：総合事業、チェックリスト、委託業務の流れなどの説明、情報共有と質疑応答。 7月：成年後見制度を活用した事例検討。 10月：糖尿病の方の支援や病気の知識、病院との連携についての事例検討。	5/29、7/17、10/29、2/19 (計4回)

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
見守りキーホルダー出張登録会	ケアプラザから離れた自治会を対象に、地域に出向いて相談窓口を開設する。 ケアプラザの紹介・個別相談受付、見守りキーホルダーの登録。 7月山下町サロンにて実施。 11月元町にて実施。	8/17、11/18、2/17 (計3回)

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
ポンテ祭り	みはらしポンテのお祭りに協力参加。ケアプラザのブースを設け、パンフレットを用いて施設の周知や、「サロンしんやま」の招待券を添付したポケットティッシュを配布し、利用のきっかけづくりを行なった。	9/2 (計1回)

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
親子でエクササイズ	音楽に合わせてお子さんと一緒に体を動かし、お母さんのシェイプアップ&リラクゼーションを行なう。 リフレッシュとともに、親子で触れ合いながら楽しい時間を過ごしてもらう。	1/24 (計1回)

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
ハローよこはまブース出店	ケアプラザ・地域包括支援センターの広報周知等が目的。 ・中区内の6地域ケアプラザと共催しブース出店。 ・輪投げを設置し、景品(参加賞)としてお菓子の配布。 ・ケアプラザ紹介のパネルを用意。来訪者にケアプラザをより知ってもらうために、パネルの内容から分かるケアプラザにまつわるクイズに回答してもらった。参加者には粗品をプレゼント。	10/7 (計1回)